

注3

大学番号：私531

[平成21年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

四国大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 四国大学
平成23年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部総合企画課

職名・氏名 課長 ナガシマ カズヒロ
長島 一博

電話番号 088-665-9905

（夜間） 088-665-9905

F A X 088-665-9946

e-mail sougoukikaku@shikoku-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部

（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

四国大学看護学部設置に係る設置計画履行状況報告書

1	調査対象大学等の概要等	1
(1)	設置者	1
(2)	大学名	1
(3)	大学の位置	1
(4)	管理運営組織	1
(5)	調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況	2
2	授業科目の概要	5
(1)	授業科目表	5
(2)	授業科目数	10
(3)	未開講科目	11
(4)	廃止科目	11
(5)	授業科目を未開講又は廃止したことに係る 「大学の所見」及び「学生への周知方法」	11
(6)	「認可時の計画の授業科目数の計」に対する 「未開講科目と廃止科目の計」の割合	11
3	施設・設備の整備状況, 経費	12
4	既設大学等の状況	13
5	教員組織の状況	14
(1)	担当教員表	14
(2)	専任教員数	27
(3)	専任教員辞任等の理由	28
(4)	専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」	28
6	留意事項に対する履行状況等	29
7	その他全般的事項	36
(1)	設置計画変更事項等	36
(2)	教員の資質の維持向上の方策(FD 活動含む)	36
(3)	自己点検・評価等に関する事項	39
(4)	情報提供に関する事項	40

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 四 国 大 学

(2) 大学名

四 国 大 学

(3) 大学の位置

〒771-1192

徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	届 出 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(サトウ イチロウ) 佐藤 一郎 (平成14年4月1日)		
学 長	(フクオカ ノボル) 福岡 登 (平成13年4月1日)		
学 部 長	(エサキ フサコ) 江崎 フサ子 (平成21年4月1日)		
学科長等	(テラオ トシコ) 寺尾 紀子 (平成21年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は、平成20年度開設の4年制の学科の場合（平成23年度までの4年間）ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称（学位）	設 置 時 の 計 画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	4年	80人	5年次人	330人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 1 年度		平成 2 2 年度		平成 2 3 年度		平成 2 4 年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 80 (-) [-]	人	人 80 (-) [-]	人	人 80 (5) [-]	人	人 () []	人	1.14 倍	
志願者数	165 (-) [-]	— (-) [-]	329 (-) [-]	— (-) [-]	343 (3) [-]	— (-) [-]	() []	() []		
受験者数	160 (-) [-]	— (-) [-]	321 (-) [-]	— (-) [-]	333 (3) [-]	— (-) [-]	() []	() []		
合格者数	129 (-) [-]	— (-) [-]	146 (-) [-]	— (-) [-]	154 (3) [-]	— (-) [-]	() []	() []		
B 入学者数	85 (-) [-]	— (-) [-]	98 (-) [-]	— (-) [-]	96 (1) [-]	— (-) [-]	() []	() []		
入学定員超過率 B／A	1.06		1.22		1.14					

- (注) ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	平成 2 1 年度		平成 2 2 年度		平成 2 3 年度		平成 2 4 年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次		[ー] 85	[ー] ー	[ー] 98	[ー] ー	[ー] 96	[ー] ー	[]	[]	
2 年次				[ー] 82	[ー] ー	[ー] 97	[ー] ー	[]	[]	
3 年次						[ー] 82	[ー] ー	[]	[]	
4 年次								[]	[]	
計				[ー] 85	[ー] 180			[ー] 275	[]	[]

(注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	退学者数（a）	在学者数（b）	入学者に対する 退学者数の割合 （a/b）
平成２１年度 （平成21年4月1日～ 平成22年3月31日）	計 ３ [〇]	（累積）計 8 5 [〇]	3.50%
	うち平成２１年度入学者 ３ 人	うち平成２１年度 8 5 人	
	（主な退学理由）		
	・ 就学意欲の低下、就職 1 名 ・ 他の教育機関への入学・転学 1 名 ・ 学生個人の心身に関する事情 1 名		
平成２２年度 （平成22年4月1日～ 平成23年3月31日）	計 ２ [〇]	（累積）計 1 8 0 [〇]	1.10%
	うち平成２１年度入学者 １ 人	うち平成２１年度 8 2 人	
	うち平成２２年度入学者 １ 人	うち平成２２年度 9 8 人	
	（主な退学理由）		
・ 学力不足 1 名 ・ 学生個人の心身に関する事情 1 名			
平成２３年度 （平成23年4月1日～ 平成23年5月1日）	計 〇 [〇]	（累積）計 2 7 5 [〇]	0%
	うち平成２１年度入学者 〇 人	うち平成２１年度 8 2 人	
	うち平成２２年度入学者 〇 人	うち平成２２年度 9 7 人	
	うち平成２３年度入学者 〇 人	うち平成２３年度 9 6 人	
（主な退学理由）			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
共通 教養 科目	人間と言語										
	教養英語Ⅰ	1 前	2								
	教養英語Ⅱ	1 後	2								
	教養英語Ⅲ	2 前	2								
	教養英語Ⅳ	2 後	2								
	教養国語	1 前	2								
	フランス語Ⅰ	2・3前		2							
	フランス語Ⅱ	2・3後		2							
	ドイツ語Ⅰ	2・3前		2							
	ドイツ語Ⅱ	2・3後		2							
	中国語Ⅰ	2・3前		2							
	中国語Ⅱ	2・3後		2							
	人間論（含大学論）	1 後	2								
	言語と文化	1・2後		2							
	地域と文化	1・2前		2							
	人権思想と歴史	1・2前		2							
	現代社会と人間	1 後 前		2							
	西洋の歴史と思想	1・2・3後		2							カリキュラム編成の都合により開講 時期を変更(21)
	日本の歴史と思想（含東洋）	1・2・3後		2							
	近代日本の教育	1・2前 前		2							
	世界の中の日本経済	1・2後		2							カリキュラム編成の都合により開講 時期を変更(21)
	西洋の政治思想史	1・2後 前		2							
	中国の法思想	1・2後		2							カリキュラム編成の都合により開講 時期を変更(21)
	日本国憲法	1 後		2							
	考古学	1 前		2							
	環境と人間	1 後	2								

共通 教養 科目	人間と環境（社会・文化）	徳島の研究	前 1・2・3後	2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(23)
		生命と倫理	1・2前	2							
		四国いやしの道	1・2後	2							
		国際関係・国際理解	1・2前	2							
		ヨーロッパ研究	1・2後	2							
		アメリカ研究	1・2後	2							
		キャリア開発	3 前	2							
		社会参加の人間学	3 前	2							
		NPO・ボランティア活動論	1・2後	2							
		災害と防災の知識	1・2後	2							
	人間と健康	社会集団と人間心理	1・2・3後	2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		カウンセリング入門	1 後	2							
		自然科学の進歩	前 1・2後	2							
		水の科学	1・2後	2							
		水と生命と健康	1・2後	2		1					
		健康スポーツ	1・2後	2							
	人間と情報	情報処理	1 後	2							
		現代社会と知的財産法	1 前	2							
		総合ゼミ	1 通	4		3		1			
	基礎科目	生物学基礎	1 前	2		1					カリキュラム編成の都合により開講時期を変更し開講(23) 履修希望者がいなかったため未開講(22) 担当予定教員(兼任)の急な辞退のため未開講(21)
		化学基礎	1 前	2		1					
		物理学基礎	2 後 未開講 →後	2							
		数学基礎	前 1 後	2							
		統計学基礎	1 後	2							
専門基礎科目	人間と健康	身体の構造と機能Ⅰ (呼吸・循環・消化器系)	1 前	2		1					カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(23)
		身体の構造と機能Ⅱ (脳神経・骨関節・感覚器系)	1 後	2		1					
		栄養学	1 後	2							
		生化学	前 1 後	1		1					
		薬理学	1 後	1		1					

専門基礎科目	人間と健康	微生物学	前 1 後	1			1					カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(23)
		人間発達学	1 前	1								
		健康科学概論	1 前	1			4	1				
		健康教育論	2 後	2			1					
		女性学	1 後		1							
		女性と胎児の薬理学	4 前			1	1					
		人間関係論	1 後		1							
		臨床心理学	1 後		1		1					
	環境と健康	疾病論（総論）	1 後	1								
		疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血系）	2 前	1								
		疾病論Ⅱ （消化・腎・泌尿器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖系）	2 前	1								
		疾病論Ⅳ （脳・神経・運動器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅴ （精神・感覚器系）	2 前	1			1					
		公衆衛生学（産業保健含）	1 後	1			1					
		保健福祉行政論	3 後	2								
		疫学・保健統計学	3 通	3			1					
		学校保健Ⅰ（総論）	2 後	1					0 -1-			棟方百熊講師の退職により、生活科学部養護保健学科 西岡かおり講師に担当者を変更(23)
		学校保健Ⅱ（方法論）	3 後	1					0 -1-			棟方百熊講師の退職により、生活科学部養護保健学科 西岡かおり講師に担当者を変更(23)
専門科目	看護の基本	看護学概論	1 前	1			1					
		看護理論演習	1 後	1			8	6	2 -3-			平野文子講師が退職したが多数の教員で担当しているため支障はない(22)
		ヘルスアセスメント	1 後	1			2	2		1	5	
		生活行動援助論	1 通	1				1				
		生活行動援助技術	1 通	1			2	2		1	5	
		治療過程に伴う援助論	2 前	1			1					
		治療過程に伴う援助技術	2 前	1			2	2		1	5	
		看護過程論	前 2 後	1			2	2		1		カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(23)
		フィールド体験実習	1 前	1			8	6	2 -3-			平野文子講師が退職したが、多数の教員で担当しているため支障はない(22)
		基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境）	1 後	1			2	2		7	6 -7- -9-	高野みち子助手が退職したため、後任教員を検討中(23) 小俣ミエ子助手、富田優子助手が退職したため後任教員を検討中(22)
		基礎看護学実習Ⅱ （看護過程）	2 後	2			2	2		7	6 -7- -9-	高野みち子助手が退職したため、後任教員を検討中(23) 小俣ミエ子助手、富田優子助手が退職したため後任教員を検討中(22)

専 門 科 目	生 涯 発 達 看 護	成人・老年看護学概論	2 前	1			2					
		精神看護学概論	2 前	1								
		在宅看護概論	2 前	1			1					
		成人・老年保健論	2 前	1			2					
		精神保健論	2 前	1			1					
		成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象)	2 前	1			3		2	1		
	人 間 と 環 境 の 相 互 作 用 の 保 持 ・ 強 化	母性・小児看護学概論	2 前	1			1	1				
		母性保健論	2 前	1				1				
		小児保健論	2 前	1				1				
		母性看護方法論	2 後	2			1	0 —1	2	0 —1	高野みち子助手が退職したため、後 任教員を検討中(23) 平野文子講師の退職により、助教2 名を追加(22)	
		小児看護方法論	2 後	2			1			2		
		母性看護学実習	3 前	2			1	0 —1	2	0 —1		
		小児看護学実習	3 前	2				1		2	高野みち子助手が退職したため、後 任教員を検討中(23) 平野文子講師が退職したため、後任 教員を検討中(22)	
		助産学概論	3 後		1		1					
		助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎)	3 後			2	1	0 —1	2	0 —1		
		助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開)	4 前			2	1	0 —1	2	0 —1	高野みち子助手が退職したため、後 任教員を検討中(23) 平野文子講師の退職したため、後任 教員を検討中(22)	
		助産管理	4 前		1		1					
		周産期医学	4 前			1						
		プライマリーケア実習	4 前			1	1	0 —1	2	0 —1	高野みち子助手が退職したため、後 任教員を検討中(23) 平野文子講師が退職したため、後任 教員を検討中(22)	
		助産学実習	4 前			6	1	0 —1	2	0 —1		
	地 域 看 護 学	地域看護学概論	3 前	1			1					
		地域看護方法論Ⅰ (地域看護基本技術)	3 前	1				1		1		
		地域看護方法論Ⅱ (地域看護活動論)	3 後	1				1		1		
		地域看護方法論Ⅲ (産案看護活動論・健康危機看護管理論)	3 後	1			1	1		1		
		地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習)	4 前	1			1	1		1		
		地域看護学実習	4 前	3			1	1		1		
	人 間 と 環 境 の 相 互 作 用 の 修 正	成人・老年看護方法論Ⅰ (慢性期)	2 後	1			1		1	1		
		成人・老年看護方法論Ⅱ (リハビリテーション)	2 後	1			1		1	1		
		在宅看護方法論	3 後	1			1			1	1	
		精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴)	2 後	1				1		1		

人間と環境の相互作用の修正	慢性期・リハビリテーション看護論	精神看護方法論Ⅱ (看護の実際)	2 後	1				1	1	1	1	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期・リハビリテーション)	3 前	4			1	1	1	1	1	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		成人・老年看護学実習Ⅳ (施設)	4 前	1			1		1	1	1	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		精神看護学実習	3 前	2			1	1	1	1	1	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		在宅看護論実習	4 前	1			1		1	1	1	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
	急性期・ターミナルケア論	成人・老年看護方法論Ⅲ (救命・救急)	2 後	1				2	1	2	2	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		成人・老年看護方法論Ⅳ (周手術期)	2 後	1				2	1	2	2	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		成人・老年看護方法論Ⅴ (ターミナルケア)	2 後	1			1			2	2	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
		成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期)	3 前	2			1	1		2	2	富田優子助手が退職したため、後任教員を検討中(22)
	看護学総論	看護倫理	3 後	1			1					
		看護管理論	3 後	1			1					
		災害・救急看護論	3 後	1			1	1	1		2	
		看護史・制度論	2 前		1		1					
		家族看護論	3 後		1		1					
		看護教育論	3 後		1		1					
		国際看護論	3 後		1				1			
		生活習慣看護論	3 後	1			1					
		看護研究方法論	3 後	1			1					
		看護研究	4 通	2			11	6	4	2	2	棟方百熊講師が退職したが、多数で担当しているため支障はない(23)
		課題探求ゼミナールⅠ	2 通	1			11	6	2	2	2	平野文子講師が退職したが、多数で担当しているため支障はない(22)
		課題探求ゼミナールⅡ	3 通	1			11	6	2	2	2	棟方百熊講師が退職したが、多数で担当しているため支障はない(23)
		総合実習	4 後	2			8	6	3	7	7	平野文子講師が退職したが、多数で担当しているため支障はない(22)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認 可 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
科目 82	科目 48	科目 6	科目 136	科目 82	科目 48	科目 6	科目 136	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1 科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。（ただし，未開講科目があった場合は，（１）「授業科目表」にその状況を反映させてください。）

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 運動場用地のうち日ノ上校地 の一部に次の借用地を含む。 借用面積 11,031㎡ 貸主 四国開発(株) 期間 平成16年1月 1日から 平成41年5月31日まで 日ノ上校地 徒歩7分、0.5km 購入及び登記による変更(21)			
	校 舎 敷 地	0㎡	87,018 ㎡	0㎡	87,018 ㎡				
	運動場用地	0㎡	26,448 26,410 ㎡	0㎡	26,448 26,410 ㎡				
	小 計	0㎡	113,466 113,428 ㎡	0㎡	113,466 113,428 ㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	0㎡	113,466 113,428 ㎡	0㎡	113,466 113,428 ㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 既存校舎改修工事等及び用途 変更等による変更(22) 登記による変更(21)			
		22,062 23,420 23,423 ㎡ 23,420 (23,423 ㎡)	35,879 32,707 32,781 ㎡ 32,707 (32,781 ㎡)	6,795 8,966 8,967 ㎡ 8,966 (8,967 ㎡)	64,736 65,093 65,171 ㎡ 65,093 (65,171 ㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室 68 —70— 室	演 習 室 62 室	実験実習室 178 —182— 室	情報処理学習施設 19 室 5 (補助職員 4 人)	語学学習施設 4 —3— 室 3 2 (補助職員 1 人)	大学全体 既存校舎改修工事及び用途変 更等による変更(22) 事務組織改編による増(23) 施設新設に伴う増(22)		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学部 看護学科			30 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体で共用分 図 書 : 377,331 [60,234] 学 術 雑 誌 : 6,102 [620] 電子ジャーナル : 3,800 [3,800] 視聴覚資料 : 16,624 [2,345] 機械・器具 : 27,067 標 本 : 116 購入価格減及び点数積算方法 変更(機械・器具)等による 変更(22) 整備・充実に伴う増(23)	
	看護学部	4,750 [205] 3,800 [170] (4,750 [205]) (2,547 [963]) (2,250 [701])	85 63 [13] 85 (41 [11])	1,303 [740] 1,303 (740 [740])	217 140 (217) (71) (68)	2,638 (1,906) (1,710) (1,830)	197 186 (197) (71) (29)		
	計	4,750 [205] 3,800 [170] (4,750 [205]) (2,547 [963]) (2,250 [701])	85 63 [13] (85 [13]) (41 [11])	1,303 [740] 1,303 (740 [740])	217 140 (217) (71) (68)	2,638 (1,906) (1,710) (1,830)	197 186 (197) (71) (29)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		4,866㎡		454席		約 450,000冊			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,291㎡		プール施設 65㎡ 弓道場 379㎡		研修館 1,866㎡ 日ノ上運動場管理棟 623㎡			
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大短で共用 当初見込み増(22) 見積予定価額の減少(22)
		教員1人当たり研究費等	440 千円	440 千円	図書購入費	12,000 千円	9,697 千円 9,681 千円	6,876 千円	
		共 同 研 究 費 等	27,000 千円	27,000 千円	設備購入費	128,628 千円 135,609 千円	37,370 千円 37,400 千円	6,587 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,562 千円	1,282 千円	1,282 千円	1,282 千円	- 千円	- 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入、手数料収入などを充てる。						

(注) ・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれて
いる場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の
項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学 学 校 名 称	四 国 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
文学部	年	人	3 年次 人	人		倍	昭和47年度		
日本文学科	4	45	2	184	学士(日本文学)	1.04	昭和47年度		
書道文化学科	4	40	2	164	学士(書道文化学)	0.47	平成13年度		
国際文化学科	4	40	2	164	学士(英語文化学)	0.69	昭和47年度		平成24年度卒業生より学位 を学士(国際文化学)に変更 予定
経営情報学部							平成 4年度		
経営情報学科	4	85	6	352	学士(経営情報学)	0.92	平成 4年度		
メディア情報学科	4	90	6	372	学士(情報ビジネス学)	0.53	平成13年度	徳島県徳島市応神 町古川字戎子野123 番地1	平成25年度卒業生より学位 を学士(メディア情報学)に 変更予定
生活科学部							昭和41年度		
生活科学科	4	30	2	124	学士(生活科学)	0.60	昭和41年度		
養護保健学科	4	—	—	—	学士(養護保健学)	—	平成13年度		平成21年度から学生募集停 止
管理栄養士養成課程	4	70	5	290	学士(保健栄養学)	1.13	昭和43年度		
児童学科	4	100	7	414	学士(児童学)	0.95	昭和43年度		
看護学部							平成21年度		
看護学科	4	80	5	330	学士(看護学)		平成21年度		
大学 学 校 名 称	四 国 大 学 短 期 大 学 部								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
ビジネス・コミュニケーション科	2	70	—	140	短期大学士 (ビジネス・コミュニケーション)	0.75	平成13年度		
人間健康科							昭和36年度		
食物栄養専攻	2	40	—	80	短期大学士 (食物栄養)	0.67	昭和36年度	徳島県徳島市応神 町古川字戎子野123 番地1	
介護福祉専攻	2	50	—	100	短期大学士 (介護福祉)	0.79	平成元年度		
幼児教育保育科	2	80	—	160	短期大学士 (幼児教育保育)	0.65	昭和39年度		
音楽科	2	20	—	40	短期大学士 (音楽)	0.57	昭和43年度		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	江崎フサ子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学実習Ⅴ (ターミナルケア)※ 成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期) 看護史・制度論 看護教育論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	峯岸由紀子	平成22年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助論 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 漢語研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	稲田久美子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護学概論 看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護倫理 看護管理論 漢語研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合演習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	坪井 敬子	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論 ※ 成人・老年保健論 ※ 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護方法論Ⅰ (慢性期) 成人・老年看護方法論Ⅱ (リハビリテーション) 生活習慣看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合演習						
専	教授	中野 静子	平成22年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論 ※ 成人・老年保健論 ※ 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学実習Ⅱ (施設) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合ゼミ						
専	教授	寺尾 紀子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論 ※ 母性看護学実習 助産学概論 プライマリケア実習 助産学実習 家族看護論 ※ 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	富田真佐子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 在宅看護概論 在宅看護方法論 在宅看護論実習 看護研究方法論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	忠津和佐代	平成21年4月	健康教育論 看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護学概論 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康危機看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合演習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	鈴木 泰夫	平成21年4月	総合ゼミ 健康科学概論 ※ 公衆衛生学(産業保健含む。) 疫学・保健統計学						
専	教授	森田 恭二	平成21年4月	総合ゼミ 生物学基礎 化学基礎 生化学 薬理学 女性と胎児の薬理学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	山本 硬治	平成21年4月	水と生命と健康 総合ゼミ 身体の構造と機能Ⅰ (呼吸・循環・消化器系) 身体の構造と機能Ⅱ (脳神経・骨関節・感覚器系) 微生物学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	森内 幹	平成21年4月	臨床心理学 ※						
専	教授	磯谷 俊明	平成22年4月	疾病論(精神・感覚器系) ※ 精神保健論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	准教授	檀原いづみ	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	新山 悦子	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助論 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護実習Ⅱ (看護過程) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	小川 佳代	平成21年4月	健康科学概論 ※ 看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論 ※ 小児保健論 小児看護方法論 小児看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	高橋 順子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性保健論 母性看護方法論 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) 助産管理 プライマリリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	橋本 茂	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴) 精神看護方法論Ⅱ (看護の実際) 精神看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	武田 道子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護方法論Ⅰ (地域看護基本技術) 地域看護方法論Ⅱ (地域看護活動論) 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康危機看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ 8 地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 災害、救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	石井 俊行	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学実習Ⅱ (救命・救急) 成人・老年看護学実習Ⅲ (急性期) 災害・救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	松尾 恭子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性的期) 成人・老年看護学実習Ⅲ (慢性的期・リハビリテーション) 成人・老年看護学実習Ⅳ (救命・救急) 成人・老年看護学実習Ⅴ (周手術期) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	平野 文子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習	専任	准教授	高橋 順子	平成22年4月	母性看護学実習	平成22年3月 平野文子講師が辞任のため、担当者を 変更 (22) 設置認可時 教員審査済み
									看護理論演習 フィールド体験実習 課題探求ゼミナールⅠ	平成22年3月 平野文子講師が辞任したが、これら の科目は、多数の教員で分担して いるため支障なし(22)
							後任未定		母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅡ	平成23年3月 平野文子講師が辞任後、後任担当者を 検討したが、決定に至らず平成 23年度については現行教員で担当 可能であり支障なし 平成24年度後任採用予定で検討中 (23) 平成22年3月 平野文子講師が辞任したが、これ らの科目は、次年度以降開講され る科目であり、現在、後任担当教 員を検討中。現時点では支障なし (22)
専	講師	棟方 百熊	平成21年4月	総合ゼミ 学校保健Ⅰ (総論) 学校保健Ⅱ (方法論) 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ	兼任	講師	西岡かおり	平成23年4月	学校保健Ⅰ (総論) 学校保健Ⅱ (方法論)	平成23年3月 棟方百熊講師が辞任のため平成23年 度より担当者を変更(23)
					兼任	講師	柿田 秀明	平成23年4月	総合ゼミ	平成23年3月 棟方百熊講師が辞任のため平成23年 度より担当者を変更(23)
									課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ	平成23年3月 棟方百熊講師が辞任したが、これ らの科目は、多数の教員で分担して いるため支障なし(23)
							後任未定		看護研究	平成23年3月 棟方百熊講師が辞任したが、本科 目は次年度開講科目であり、現時 点では支障なし。現在、後任担当 教員を検討中(23)
専	助教	杉野 美礼	平成21年10月	ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性的期・リハビリテーション) 国際看護論 ※ 総合実習						
専	助教	澤野りき江	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 成人・老年看護学実習Ⅰ (看護の対象) 成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性的期) 成人・老年看護学実習Ⅲ (リハビリテーション) 成人・老年看護学実習Ⅳ (施設) 成人・老年看護学実習Ⅴ (救命・救急) 成人・老年看護学実習Ⅵ (周手術期) 総合実習						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	齋藤 啓子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) プライマリリーケア実習 助産学実習 総合実習						
専	助教	牛越 幸子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ (助産過程の基礎) 助産診断・技術学Ⅱ (助産過程の展開) プライマリリーケア実習 助産学実習 総合実習						
専	助教	藤代 知美	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 精神看護方法論Ⅰ (精神障害と看護の特徴) 精神看護方法論Ⅱ (看護の実際) 精神看護学実習 総合実習						
専	助教	尾崎 八代	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 地域看護方法論Ⅰ (地域看護基本技術) 地域看護方法論Ⅱ (地域看護活動論) 地域看護方法論Ⅲ (産業看護活動論・健康機器看護管理論) 地域看護方法論Ⅳ (地域看護基本技術演習) 地域看護学実習 総合実習						
専	助教	岩藤のり子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ (看護の対象・環境) 基礎看護学実習Ⅱ (看護過程) 在宅看護方法論 在宅看護論実習 総合実習						
兼任	講師	上岡 千世	平成21年4月	臨床心理学 ※ 成人・老年看護方法論Ⅴ (ターミナルケア) ※ 家族看護論 ※						
兼任	講師	山本 映子	平成21年4月	精神看護学概論						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	小野寺 房子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	戸村 道子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	稲岡 光子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	河野 美香	平成21年4月	女性学						
兼任	講師	白神 皐	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	兼任	講師	橋本 吉弘	平成21年10月	疾病論（総論）	平成21年10月 白神皐講師が一身上の都合で辞退 したため担当者を変更(22)
					兼任	講師	河原 啓治	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	平成22年3月 白神皐講師が一身上の都合で辞退 したため、平成22年度より記載の 3名で担当(22)
					兼任	講師	重清 俊雄	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	
					兼任	講師	三浦 眞司	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	
兼任	講師	佐藤 香代	平成21年4月	疾病論Ⅱ （消化・腎・泌尿器系） 疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系） ※						
兼任	講師	中山 孝善	平成21年4月	疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系） ※						
兼任	講師	中田 雅敏	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅳ （脳・神経・運動器系）						
兼任	講師	長江 哲夫	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	大村 和正	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	金村 章	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	一宮 斉子	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系） ※						
兼任	講師	西條 良香	平成21年4月	周産期医学						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	真鍋 俊照	平成21年4月	日本の歴史と思想（含東洋） 四国いやしの道	兼任	講師	須藤 茂樹	平成23年4月	日本の歴史と思想(含東洋)	平成23年3月 真鍋俊照教授の一身上の都合により 担当教員を変更(23)
兼任	教授	大原 剛	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ						
兼任	教授	近藤 碩二	平成21年4月	言語と文化	兼任	教授	世羅 博昭	平成22年4月	言語と文化	平成22年3月 近藤碩二教授退職のため、担当者 を変更(22)
					兼任	講師	山本 哲生	平成23年4月	言語と文化	平成23年3月 世羅博昭教授退職のため、担当者 を変更(23)
兼任	教授	竹原 弘	平成21年4月	人間論(含大学論) 西洋の歴史と思想 西洋の政治思想史 生命と倫理 ※ ヨーロッパ研究 総合ゼミ						
兼任	教授	田中 省造	平成21年4月	教養国語 四国いやしの道 総合ゼミ						
兼任	教授	田中 敏生	平成21年4月	教養国語						
兼任	教授	谷口 伸光	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	教授	友重 幸四郎	平成21年4月	教養国語						
兼任	教授	亀石 二三	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	教授	阿部 曜子	平成21年4月	教養英語Ⅱ 生命と倫理 ※						
兼任	教授	岡本 俊彦	平成21年4月	教養英語Ⅳ						
兼任	教授	忠津 光治	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	田中 孝雄	平成21年4月	教養英語Ⅱ						平成22年4月より 田中孝雄教授退職のため、他の2 名の教員で分担し対応(22)
				教養英語Ⅲ	兼任	准教授	美馬 康男	平成22年4月	教養英語Ⅲ	平成22年4月より 田中孝雄教授退職のため担当者を 変更(22)
				教養英語Ⅳ			後任未定		教養英語Ⅳ	平成22年3月 田中孝雄教授が退職したが、本年 度未開講科目であり支障なし(22)
					兼任	准教授	美馬 康男	平成23年4月	教養英語Ⅳ	平成23年4月 田中孝雄教授退職のため担当者を 変更(23)
兼任	教授	長尾 輝彦	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅳ						
兼任	教授	古田 八恵	平成21年4月	教養英語Ⅱ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼任	教授	横畠 康吉	平成21年4月	アメリカ研究 災害と防災の知識 総合ゼミ	兼任	講師	山本 哲生	平成23年4月	総合ゼミ	平成23年3月 横畠康吉教授の一身上の都合によ り担当教員を変更(23)
兼任	教授	小松 君代	平成21年4月	現代社会と人間 総合ゼミ					ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	平成22年4月より 石川栄作講師の一身上の都合によ る辞任のため、担当科目を追加 (22)
兼任	教授	萩原 八郎	平成21年4月	国際関係・国際理解 アメリカ研究 総合ゼミ						
兼任	教授	蔵本 暢浩	平成21年4月	水の科学					総合ゼミ	平成22年4月より 津村健司准教授退職のため、担当 科目を追加(22)
兼任	教授	羽賀 敏雄	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	教授	近藤 真紀	平成21年4月	栄養学						
兼任	教授	原田 寛子	平成21年4月	健康科学概論 ※	兼任	講師	原田 寛子	平成22年4月	健康科学概論 ※	平成22年4月 原田寛子教授、退職後も兼任講師 として引き続き当該科目を担当 (22)
				生命と倫理 ※					生命と倫理 ※	平成22年4月 原田寛子教授、退職後も兼任講師 として引き続き当該科目を担当 (22)
				総合ゼミ					総合ゼミ	平成22年3月 原田寛子教授が退職したが、「総 合ゼミ」は39名の担当者があり支 障なし(22)
兼任	教授	安好 敏子	平成21年4月	カウンセリング入門	兼任			平成23年4月		平成23年4月より 短期大学部に配置換えとなったた め「兼任」に変更(23)
兼任	教授	大谷 八峯	平成21年4月	総合ゼミ						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考	
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名		
兼任	教授	秋山 敬子	平成21年4月	総合ゼミ							
兼任	教授	鈴木 敏昭	平成21年4月	社会集団と人間心理 総合ゼミ 人間発達学							
兼任	准教授	辻 尚子	平成21年4月	総合ゼミ							
兼任	准教授	森上 洋光	平成21年4月	総合ゼミ							
兼任	准教授	喜多 三佳	平成21年4月	中国の法思想 総合ゼミ							
兼任	准教授	村井 礼	平成21年4月	現代社会と知的財産法							
兼任	准教授	中岡 泰子	平成21年4月	総合ゼミ 人間関係論							
兼任	准教授	坂口 久美子	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	岩田 晴美	平成23年4月	総合ゼミ	平成23年3月 坂口久美子准教授退職のため担当 教員を変更(23)	
兼任	准教授	板東 絹恵	平成21年4月	総合ゼミ							
兼任	准教授	小野 健司	平成21年4月	総合ゼミ 近代日本の教育							
兼任	講師	谷口 薫	平成21年4月	教養英語Ⅳ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		兼任	講師	篠原 信子	平成23年4月	教養英語Ⅳ	平成23年3月 谷口薫講師育児休業中のため非常 勤講師を追加し対応(23)
						兼任	講師	田島 俊郎	平成23年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	平成23年3月 谷口薫講師育児休業中のため非常 勤講師を追加し対応(23)
						准教授		平成23年4月		平成23年4月 准教授昇格のため職名の変更(23)	
兼任	講師	Mark Gragam Fennelly	平成21年4月	国際関係・国際理解 NPO・ボランティア活動論							

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	大久保 正信	平成21年4月	情報処理						
兼任	講師	関口 寛	平成21年4月	総合ゼミ		准教授		平成22年4月	人間論(含大学論)	平成22年4月より 浅香寿徳准教授退職のため担当科目を追加(22)
								平成23年4月		平成23年4月 准教授昇格のため職名の変更(23)
兼任	講師	武市 泰彦	平成21年4月	総合ゼミ		准教授		平成23年4月		平成23年4月 准教授昇格のため職名の変更(23)
兼任	助教	佐伯 雅宣	平成21年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		講師		平成23年4月		平成23年4月 講師昇格のため職名の変更(23)
兼任	助教	永井 真也	平成21年4月	総合ゼミ		講師		平成22年4月		平成22年4月 講師昇格のため職名の変更(22)
兼任	助教	范 永輝	平成21年4月	健康スポーツ						
兼任	教授	竹内 庵	平成21年4月	世界中の日本経済						
兼任	教授	西尾 幸郎	平成21年4月	環境と人間						
兼任	教授	西堀 尚良	平成21年4月	自然科学の進歩						
兼任	教授	日開野 博	平成21年4月	NPO・ボランティア活動論						
兼任	教授	木村 彰	平成21年4月	環境と人間 社会参加の人間学		兼任 講師	坂東 治男	平成22年4月	社会参加の人間学	平成22年3月 木村彰教授が退職したが、並列授業で複数の担当者がおり支障なし(22)
										平成22年4月より 木村彰教授退職のため、担当者を 変更(22)
兼任	准教授	宇山 裕士	平成21年4月	キャリア開発						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	岡田 和子	平成21年4月	教養英語Ⅰ	兼任	教授		平成23年4月		平成22年4月 教授昇格のため職名の変更(22) 平成23年4月 大学に配置換えとなったため「兼任」に変更(23)
兼任	准教授	小笠 泰史	平成21年4月	徳島の研究 総合ゼミ						
兼任	准教授	田村 伸代	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ	兼任	講師	須藤 茂樹	平成23年4月	教養国語	平成23年3月 田村伸代准教授が退職したため担当教員を変更(23)
					兼任	准教授	富本 輝仁	平成23年4月	総合ゼミ	平成23年3月 田村伸代准教授が退職したため担当教員を変更(23)
兼任	准教授	津村 健司	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	教授	蔵本 暢浩	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年4月より 津村健司准教授が退職したため、 担当者を変更(22)
兼任	准教授	内藤 正義	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼任	准教授	吉田 一彦	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	秋山 賢治	平成21年4月	総合ゼミ						平成21年3月 秋山賢治准教授、一身上の都合により 辞退。 「総合ゼミ」は39名の担当者で実施 なので、支障はない。(21)
兼任	准教授	浦上 純二	平成21年4月	徳島の研究	兼任	准教授	武知 公雄	平成21年4月	徳島の研究	平成21年3月 浦上純二准教授の一身上の都合による 辞退のため、担当者を変更 (21)
				物理学基礎	兼任	准教授	福井 清二	平成22年4月	徳島の研究	平成22年4月より 武知公雄准教授の一身上の都合による 辞退のため、担当者を変更 (21)
							後任未定	平成21年4月		平成21年3月 浦上純二准教授の一身上の都合による 辞退のため未開講(21)
								平成22年4月		平成22年4月 履修希望者がいなかったため未開 講(22)
					兼任	教授	奥村 英樹	平成23年4月	物理学基礎	平成23年4月 担当者の変更(23)
兼任	准教授	白石 基章	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	福井 清二	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年4月より 白石基章准教授退職のため、担当 者を変更(22)
兼任	准教授	赤尾 敏之	平成21年4月	総合ゼミ					化学基礎	平成21年5月より 村井尚志准教授の一身上の都合による 辞退のため、担当科目を追加 (22)
兼任	准教授	大平 憲一郎	平成21年4月	人間論（含大学論）	兼任	准教授	浅香 寿徳	平成21年4月	人間論（含大学論）	平成20年11月 大平憲一郎准教授の一身上の都合による 辞退のため、担当者を変更 (21)
				生命と倫理 ※	兼任	講師	関口 寛	平成22年4月	人間論（含大学論）	平成22年4月より 浅香寿徳准教授退職のため、担当 者を変更(22)
					兼任	准教授	浅香 寿徳	平成21年4月	生命と倫理 ※	平成20年11月 大平憲一郎准教授の一身上の都合による 辞退のため、担当者を変更 (21)
				総合ゼミ						平成22年4月より 浅香寿徳准教授、退職後も兼任講師 として引き続き当該科目を担当 (22)
										平成20年11月 大平憲一郎准教授が一身上の都合で 辞退したが、「総合ゼミ」は、 39名で担当しており支障なし (21)

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	加集 隆司	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	福岡 卓一	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年4月より 加集隆司准教授退職のため、担当者を変更(22)
兼任	准教授	佐藤 昌宏	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	講師	須藤 茂樹	平成23年4月	総合ゼミ	平成23年3月 佐藤昌宏准教授が退職したため、担当者を変更(23)
兼任	准教授	浅香 寿穂	平成21年4月	総合ゼミ						平成22年3月 浅香寿穂准教授が一身上の都合により辞退したが、「総合ゼミ」は他に39名の担当者がおり支障なし(22)
					兼任	講師	関口 寛	平成22年4月	人間論(含大学論)	平成21年4月より 大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21)
									人間論(含大学論)	平成22年4月より 浅香寿穂准教授退職のため、担当者を変更(22)
									生命と倫理 ※	平成21年4月より 大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21) 平成22年4月より 浅香寿穂准教授、退職後も兼任講師として引き続き当該科目を担当(22)
兼任	准教授	池田 昌和	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	八島 哲夫	平成21年4月	徳島の研究 社会参加の人間学						
兼任	准教授	廣瀬 秀史	平成21年4月	数学基礎	兼任	講師	柿田 秀明	平成23年4月	数学基礎	平成23年3月 廣瀬秀史准教授退職のため、担当者を変更して実施(23)
				統計学基礎	兼任	准教授	田上 吉輝	平成23年4月	統計学基礎	平成23年3月 廣瀬秀史准教授退職のため、担当者を変更して実施(23)
兼任	准教授	富加見 恒治	平成21年4月	生物学基礎	兼任	准教授	岡田 啓二	平成23年4月	生物学基礎	平成23年3月 富加見恒治准教授退職のため、担当者を変更して実施(23)
兼任	准教授	村井 尚志	平成21年4月	人間論(含大学論)						平成21年5月 村井尚志准教授が一身上の都合により辞退したが、並列授業で複数の担当者がおり支障なし(22)
				化学基礎	兼任	准教授	赤尾 敏之	平成21年5月	化学基礎	平成21年5月より 村井尚志准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更(22)
				総合ゼミ						平成21年5月 村井尚志准教授が一身上の都合により辞退したが、「総合ゼミ」は他に39名の担当者がおり支障なし(22)
兼任	准教授	大平 孝子	平成21年4月	生命と倫理 ※ 総合ゼミ						
兼任	講師	Luxton, Robeert S	平成21年4月	国際関係・国際理解 教養英語Ⅳ						
兼任	講師	大和 武生	平成21年4月	人権思想と歴史						
兼任	講師	宮崎 信也	平成21年4月	四国いやしの道						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	石川 栄作	平成21年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	兼任	教授	小松 君代	平成22年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	平成22年4月より 石川栄作講師の一人上の都合による 辞退のため、担当者を変更(22)
兼任	講師	平井 松午	平成21年4月	地域と文化						
兼任	講師	中村 豊	平成21年4月	考古学						
兼任	講師	濱 高公	平成21年4月	日本国憲法						
兼任	講師	掛井 秀一	平成21年4月	情報処理	兼任	講師	橋爪 正樹	平成21年4月	情報処理	平成21年4月より 掛井秀一の本務校との関係で担当者 を変更(21)
兼任	講師	藤田 雅文	平成21年4月	健康スポーツ						平成22年3月 藤田雅文講師が一人上の都合により 辞退したが、他に4名の担当者が おり支障なし(22)
兼任	講師	都築 顯雄	平成21年4月	保健福祉行政論			後任未定			平成22年3月 都築顯雄講師が一人上の都合により 辞任したが、開講まで時間があり 現在教員を公募中(22)
					兼任	講師	笹川エリ子	平成23年4月	保健福祉行政論	平成23年3月 都築顯雄講師の一人上の都合により、 担当者の変更(23)
					兼任	講師	緒方 静子	平成23年4月	保健福祉行政論	

- (注) ・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・年齢は、「認可時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 - なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
 - ・専任教員を変更する場合は、当該専門教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。

(2) 専任教員数

認 可 時 の 計 画						変 更 状 況						備 考
教 授	准教授	講 師	助 教	計	助 手	教 授	准教授	講 師	助 教	計	助 手	
13	6	4	7	30	9	13	6	2	7	28	6	
(10)	(6)	(4)	(6)	(26)	(9)	[]	[]	[△2]	[]	[]	[△3]	

- (注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	講師	平野文子	一身上の都合により退職。
2	講師	棟方百熊	他大学の専任教員に就任するために辞任。
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

一身上の都合により、平野文子講師が退職したが、本年度開講科目については多数の教員で担当しているため、カリキュラム運営に支障はなく、次年度以降の開講科目の担当については、現在、後任を検討中である。また、学生に対しては、履修指導の際にこのことを説明し、周知している。

他大学の専任教員に就任するため棟方百熊講師が辞任したが、専門科目である「学校保健Ⅰ（総論）」「学校保健Ⅱ（方法論）」については本学生活科学部養護保健学科 西岡かおり講師に担当者を変更し実施する。また、多数で担当している科目については、カリキュラム運営に支障はないため、現行の教員数で実施する。学生に対しては、平野文子講師同様、履修指導の際に説明を行い、周知・理解を図った。

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (20年10月)	(留意事項) 1 看護師、保健師のほかに助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)の資格を取得可能としているが、設置の趣旨・目的に沿った看護教育の質の低下をまねかないようにすること。	入学後のオリエンテーションにおいて卒業要件である看護師・保健師の統合カリキュラムの履修モデルおよび助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)取得希望者用の履修モデルを提示し、卒業や国家試験受験資格取得に必要な科目・単位について理解させるとともに、安易な資格取得に奔ることなく教育理念に即した科目履修に努力することを留意させた。また、卒業要件以外の資格・免許取得に関しては、人数制限を設け適切な時期に希望学生の中から、意欲・履修能力・成績等を勘案し選抜することとする。(21) 新入生へは前年度同様にオリエンテーションにおいて説明を行い、卒業や国家試験受験資格取得に必要な科目・単位について理解させるとともに、安易な資格取得に奔ることなく教育理念に即した科目履修に努力するよう促した。 平成21年度入学の教育職員免許取得希望者に関しては、1年次後期に希望者を募り選考を行った。選考方法は面接と履修済科目の単位認定結果を加味し総合的に検討をし、3科目の不可科目のある学生に関してはカリキュラム上教育職員免許取得のための履修が不可能と考え不合格とし、2科目の不可科目がある学生で養護・看護両教育職員免許取得希望者はどちらか一方の取得とすることとした。結果、養護教諭一種免許状取得希望者18名内16名合格、養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状(看護)取得希望者6名内6名合格とした。(22) 新入生へは例年同様に、オリエンテーション時に説明を行い、各々の内容について周知・理解を図った。編入生についても同様にオリエンテーションを行った。 平成22年度入学の教育職員免許取得希望者に関しては昨年度同様の選考を実施した。結果、養護教諭一種免許状取得希望者19名中、18名合格、養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許証(看護)取得希望者2名中2名合格とした。 また、平成21年度入学の助産師国家試験受験資格取得希望者については、平成23年度前期「母性看護学実習」終了後、助産師への意欲や成績等を総合的に評価し、希望者より8名を選出予定である。(23)	

	2 看護師及び保健師以外の資格取得については、卒業要件でないことを募集要項及び履修指導において明確に説明すること。特に、編入学生に対しては、多様な資格取得の困難性を募集要項等において予め理解させることができるようにしておくこと。	看護学科パンフレット、入試ガイドに看護師・保健師国家試験受験資格の卒業要件に加え、選択履修することで助産師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状（看護）が取得可能という旨を明記し募集活動を行った。また、履修要項、オリエンテーション資料にも詳述し、入学後行ったオリエンテーションにおいて学生に周知した。(21) 看護学科パンフレット、入試ガイドに加え、大学案内やホームページにも卒業要件・選択履修について明記し募集活動を行った。入学後は、履修要項、オリエンテーション資料へ詳述し説明を行い周知を図った。 平成23年度より募集を開始する編入学生には入学前に取得希望免許・資格と取得済み免許・資格を調査し、編入後にその希望を含めた単位認定を行うこととする。更に『編入学試験要項』に「希望する資格や免許取得に制約を受けることがあるので学科に相談すること。」と明記し周知を行う。(22) 入学案内、入試ガイド、看護学科パンフレット、本学HPおよび学科HPにおいて、卒業要件・選択履修について明記し、募集活動を行った。入学後は、履修要項と合わせて、オリエンテーション資料にも詳述し、説明を実施した。 編入学生へも同様の説明を行うとともに、入学後直ちに成績証明書の提出を求め、学科教務委員の単位認定担当より単位認定を行い、学部教授会において承認を得た。さらに、個別のカリキュラム指導も行った。(23)	編入学生に対しては、平成23年度の「編入学試験要項」に詳細を明記し募集を行うこととする。(21)
--	---	---	---

3 文学部日本文学科の入学定員超過の是正に努めること。

入学者数管理をより綿密に行うことで平成21年度入試では、入学定員超過率が1.00倍となった。また、修業年限相当期間における入学定員超過率の平均も1.21倍となっている(表1参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。

表1 四国大学文学部日本文学科入学状況

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	平均入 学定員 超過率
A 入学 定員	人 45	人 45	人 45	人 45	倍 1.21
B 入学 者数	61	55	58	45	
入学 定員比 B/A	倍 1.35	倍 1.22	倍 1.28	倍 1.00	

(21)

平成22年度入試では、入学定員超過率が0.84倍となったため、修業年限相当期間における入学定員超過率の平均が1.08倍となった(表2参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。

表2 四国大学文学部日本文学科入学状況

	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	平均入 学定員 超過率
A 入学 定員	人 45	人 45	人 45	人 45	倍 1.08
B 入学 者数	55	58	45	38	
入学 定員比 B/A	倍 1.22	倍 1.28	倍 1.00	倍 0.84	

(22)

平成23年度入試においては、入学定員超過率が1.02倍となり0.02ポイントの超過となったが、修業年相当期間における入学定員超過率の平均は1.03倍と昨年度より0.05ポイント下回る結果となった(表3参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。

表3 四国大学文学部日本文学科入学状況

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	平均入 学定員 超過率
A 入学 定員	人 45	人 45	人 45	人 45	倍 1.03
B 入学 者数	58	45	38	46	
入学 定員比 B/A	倍 1.28	倍 1.00	倍 0.84	倍 1.02	

(23)

	(その他意見) 1 臨地実習の同意書には、安全確保及び個人情報保護に関する内容を明記すること。	「看護学実習に係る個人情報の保護に関する取り扱い」「臨地実習における受持ち患者承諾書」「看護学実習における安全管理」を覚書に添付し、臨地実習先へ提出する。現在、実習開始に向け担当者が実習施設を訪問し、実習計画を協議している。その際上記の内容についても説明を加えている。(21) 実習を行う全学生および全教員が、安全確保および個人情報保護に関する内容を含む「臨地実習誓約書」を実習施設に提出し、遵守に努め実習を終了した。 また、実習開始前に『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習指導者と実習担当教員が再確認を行った。(22) 平成22年度同様、実習の事前学習として『看護学実習要項【共通編】』の記載事項について、実習指導者および実習担当者が再確認を行うとともに、実習を行う全学生および全教員が「臨地実習誓約書」を提出し遵守に努め実習を終了した。(23)	
	2 実習施設側の個人情報保護・事故防止の方針に従うことを明確にすること。	『臨地実習に関する覚書』に「指示及びサービスの内容」「守秘義務」の項目を設け実習施設と協定を結んだ。また、各看護学実習に共通する注意事項等を編集して作成した『実習要項共通編』に上記の内容を盛り込み、「看護学実習概論」や実習前のオリエンテーション等で学生に繰り返し指導を行う。(21) 実習開始前に、『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習担当教員が再確認を行った。 『看護学実習要項【共通編】』の「看護学実習に係る個人情報の保護に関して」の中に「看護学実習における守秘義務」「学生自身および実習関係者に関する情報の保護と守秘義務」を詳述し、「看護学概論」や実習前の事前学習、オリエンテーション等において指導を行い実行された。(22) 『看護学実習要項【共通編】』の「看護学実習に係る個人情報の保護に関して」の該当項目について、実習担当教員が再確認を行うとともに、「看護学概論」や実習前の事前学習やオリエンテーション等において、指導を行った。 実習を行った学生は、個人情報保護および事故防止に違反した者は皆無であった。(23)	

	3 上記資格取得に関連して、編入学生に対して補講を前提とすることは教育上望ましくないので、正規の時間割の中に位置づけるように配慮すること。	編入学生の履修モデルを短期大学、看護専門学校3年課程ならびに2年課程の3パターンで作成した。なお、入学者各々人の既修得単位の状況が異なるため、各人に適した履修指導を入学前から個別に行う。(21) 平成23年度からの編入学生受入れに備えて『編入学試験要項』を作成中である。その中に、資格・免許の取得について、入学前に取得希望免許・資格と取得済免許・資格を調査し、その希望を含めた単位認定を行うことを明記している。 編入学後は、認定単位および免許・資格取得等についてのオリエンテーションを実施し、3パターン（短期大学、看護専門学校3年課程ならびに2年課程）の履修モデルを参考に履修指導を行うこととする。(22) 本年度入学した編入学生については、入学案内や募集要項において入学前に周知を図るとともに、入学後は直ちに成績証明書をもとに単位認定を行い、カリキュラム指導を実施した。(23)	
設置計画履行状況調査時 (平成21年5月)	該当なし		
設置計画履行状況調査時 (平成22年5月)	該当なし		
設置計画履行状況調査時 (平成23年5月)	1 文学部書道文化学科、国際文化学科、経営情報学部メディア情報学科、生活科学部生活科学科、四国大学短期大学部人間健康科、幼児教育保育科、音楽科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。	【文学部書道文化学科】 平成22年度の定員未充足率0.48倍（入学者定員比0.48倍）という結果を受け、入学生確保のため、 (1) 学科教員による県下28校、県外68校の高校訪問・募集活動の実施 (2) 学科HPのリニューアル、学科ニュースの発行回数増 (3) 「臨池会」（学科卒業生）を通じての募集活動 (4) 学生による商店街の横断幕や清酒ラベルの揮毫や地域のイベントに書道パフォーマンスでの参加など、地域社会へのPR等を実施した。 その結果、入学定員比は0.55倍と上昇したが、全体の定員未充足率は0.47倍であり、課題を残す結果となった。次年度は更なる充足に向け、学生募集に努めたい。(23) 【文学部国際文化学科】 平成22年度の定員未充足率0.61倍（入学定員比0.45倍）という結果を重く受け止め、 (1) 学生募集のための学科連絡会の定期開催 (2) 学生との懇話会開催による学生のニーズの把握	

		(3)語学学習及び国際交流の場である「ワールドブラザ」を高校生に紹介する高大連携プログラムの実施 (4)学科内に広報担当委員会を設置し、「学科ニュースレター」の作成・配布等による学科広報活動の強化 等を実施し、0.67倍(入学定員比0.95倍)に上昇した。今後も定員充足を図って参りたい。(23) 【経営情報学部メディア情報学科】 平成22年度の定員未充足率0.64倍(入学定員比0.46倍)という結果を受け、学生募集の強化、高等学校からの施設見学の積極的な受け入れ、オープンキャンパスにおいて、模擬授業や体験学習等を積極的に実施した。 また、カリキュラムの更なる充実を図るため、平成22年6月に改正を行い本年度入学生にはより魅力的なカリキュラム構成となった。 平成23年度の入学者はやや増加(入学定員比0.49倍)したが、定員未充足率は0.53倍と依然厳しい状況である。定員充足に向け、より積極的に募集活動等を実施したい。(23) 【生活科学部生活科学科】 平成22年度の定員未充足率0.69倍(入学定員比0.73倍)という結果を受け、高校生や保護者にとって魅力ある学科となるため、学科全体会議、コース別会議を重ね、カリキュラムコンセプトの明確化やそれを反映した学生募集用パンフレットの作成を行った。 しかし、平成23年度の定員未充足率が0.60倍(入学定員比0.53倍)と更に厳しい状況となったため、学科広報委員会を設置し「学科ニュースレター」の内容の充実と配布先の拡充、高校生対象の「夏季セミナー」を実施し、広報活動の拡充を図り、学生募集に努め、定員充足を図りたい。(23) 【人間健康科】 平成22年度の定員未充足率は0.72倍(入学定員比0.84倍)であり、専攻別に見ると食物栄養専攻0.67倍(入学定員比0.62倍)、介護福祉専攻0.76倍(入学定員比1.02倍)という結果であった。 各専攻ともに卒業実験発表会、実習報告会に高等学校および学生を推薦してくれた担任の先生を招聘し、高大連携による相互理解を深めている。また、オープンキャンパスや高校生対象の講座の開催など各専攻が持つ魅力を受験生へ広めている。 しかし、平成23年度の定員未充足率は0.73倍と0.01ポイント上回ったものの、入学定員比でみると0.68倍と減少する結果となった。今後は、上記高大連携の更なる強化と、在学生の育成に力を注ぎ、介護福祉士国家試験全員合格と栄養士実力試験Aランク取得の実現を目指し、充足率100%に繋げていきたい。	
--	--	---	--

		【幼児教育保育科】 平成22年度の定員未充足率が0.64倍(入学定員比0.76倍)となったため、オープンキャンパスや出張授業を通して本学科の魅力を発信するとともに、学科独自に公務員対策を実施し、現役2名、卒業生3名の合格者を排出した。また、本学の認定資格である「初級子ども健康指導員」「初級保育カウンセラー」の認定証の授与を本年度始めて実施した。 平成23年度については、定員未充足率が0.65倍と昨年度を0.01ポイント上回ったが、入学定員比で見ると0.61倍と厳しい状況となった。これを受け、上記内容の更なる充実を図り、学生募集に努めていきたい。(23) 【音楽科】 平成22年度の定員未充足率が0.55倍(入学定員比0.4倍)であったため、在学生への教育効果の向上を図りつつ、学生募集に繋がる「レコーディングセミナー」や「体験レッスン」など年間13回の行事開催や地域イベントへの参加、オープンキャンパスで模擬授業や学食ラウンジ演奏、ライブ開催など内容の充実を図った。また、学科独自に学生募集を行った。 平成23年度については、定員未充足率0.57倍(入学定員比0.65倍)と微増した。今後も更なる充足を図るため、学生募集に努めたい。(23)	
--	--	---	--

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- (注) 1 「認可時」欄には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度（丸数字）を付記してください。
- 2 「設置計画履行状況調査時」欄には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- 3 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- 4 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

認 可 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	変更なし。

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教員の資質の維持向上については、毎年度、理事会より示される具体的な指針を受け、個々に教員がその実現に向け努力していることに加え、学長を委員長とする「FD委員会」を中心に全学的な各種取組を推進している。

また、当該学部においては、「学部FD委員会」「研究委員会」を設置し、附属看護学研究所と連携を図りながら取組の充実を図っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○FD委員会

学長、副学長、各学部長・研究科長から2名、各学部教員から2名、教務部長、共通教養教育運営委員長、事務局から2名で組織し、ほぼ全員の委員出席のもと、毎月1回開催している。

○学部FD委員会

委員は、学部教員4名で構成し、毎月1～2回開催している。本委員会委員の内、代表の2名が全学FD委員会の委員であり、学内との連携を図っている。

○研究委員会

研究交流推進委員会と看護学科研究倫理審査委員会を合体させ、平成22年5月より研究委員会を発足した。学部教員4名で組織し、毎月1回開催している。

c 委員会の審議事項等

○FD委員会

本委員は、委員会規則第2条に規定された以下の事項の審議・推進を行う。

- (1) 授業改善のための研修会
- (2) 学生による授業評価の実施
- (3) 新任教員研修会
- (4) 教育問題懇話会
- (5) その他

○学部FD委員会

本委員会は「教員が能力・資質向上のために行う活動を学部教授会や教務委員会、各領域長と連携をしながら整備・支援し、かつ企画・運営・評価を行う」と学部教員間で合意を図り、以下の様な事項を推進する。

- (1) 教員の研修会・研究会の開催・運営
- (2) 大学全体・他学部とのFDとの連携
- (3) 新任教員のFD支援

○研究委員会

本委員会は、看護学部内の研究活動の推進と附属看護学研究所との連携、四国大学倫理委員会との連携の下、以下の様な事項に取り組む。

- (1) 看護学部内の研究活動の推進
- (2) 附属看護学研究所との連携取組
- (3) 全学的倫理規定に対応しない倫理審査
- (4) その他

② 実施状況

a 実施内容

○FD委員会

- (1) 授業改善のための研修会
 - ・授業の実践報告会
 - ・模擬授業等の実施
- (2) 授業公開
- (3) 学生による授業評価の実施
- (4) 教育問題懇話会の開催
- (5) 「FDメールマガジン」の発行
- (6) 「教育実践報告書」の刊行
- (7) 『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』の活用

○学部FD委員会

- (1) 講義・演習・実習の運営や課題となった事項についての研修会の実施
- (2) 教員による自己（授業）評価の実施

○研究委員会

- (1) 研究手法習得のための研修会の実施

b 実施方法

○FD委員会

- (1) 授業改善のための研修会
 - 年間2回実施している。
- (2) 授業公開
 - 平成21年6月22日～26日、平成22年6月28日～7月2日に内部公開し、平成21年11月28日、平成22年7月2日に外部公開を実施した。県内すべての高等学校と県外の関係高等学校に案内し、高校生、高等学校教員、保護者、地域の方の参加があった。
- (3) 学生による授業評価の実施
 - Web上で実施し、学内に公開している。原則として全学部学科のすべての科目で実施している。
- (4) 教育問題懇話会の開催
 - 各種の教育課題についての問題提起、研究協議を行う。
- (5) 「FDメールマガジン」の発行
 - 全教職員に毎月1回発行し、FDに資する各種情報を提供している。
- (6) 「教育実践報告書」の刊行
 - 1年間のFD活動のまとめ及び各教員の授業実践報告を掲載している。
- (7) 『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』の活用
 - 愛媛大学を中心とする「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』による大学の教育力向上」プログラムに参画し、事業の推進により更なるFD活動の推進・充実を図っている。

○学部FD委員会

- (1) 講義・演習・実習の運営や課題となった事項についての研修会の実施
 - 平成21年度は、5月～8月の毎週1回(90分)授業案(実習指導案)の計画・立案についての研修会を開催した。7月には、助教6名・助手9名が作成した授業案により模擬授業を実施し、研究協議を

行った。研修の成果は後続の「フィールド体験実習」「基礎看護学実習」に生かすことができた。

平成22年度は、前後期講義・演習終了時や実習終了後にそれぞれにおいて生じた問題・課題等について、具体的内容を事例として取り上げ、検討を行った。

(2) 教員による自己（授業）評価の実施

平成22年度より、教員による自己（授業）評価を実施した。学部教員の内3分の2の教員から提出があり、自己（授業）評価を行うことで、各々の教育方法や教育内容の課題が見えてきた。この結果を今後の事例検討に繋げていく。

○研究委員会

(1) 研究手法習得のための研修会の実施

学部教員から希望者を募り、少人数制をとり計画的、段階的に研究手法の取得と研究への取り組み、研究活動促進のために研修を実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○FD委員会

FD委員会主催する年間2回の研修会については、全学教職員に周知を図り参加を促している。公務の都合等で参加が難しい者を除き（欠席の場合はその事由を提出）、毎回6～7割程度の教職員が参加しており、毎回有意義な研修の機会となっている。

○学部FD委員会

毎月1～2回、学部教員ほぼ出席のもとアフター5に実施し、効果を上げている。

○研究委員会

年度初めに学部教員から希望を募り、アフター5に少人数制で実施し、効果を上げている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

○FD委員会

毎月1回開催されるFD委員会において、各種取組の計画立案・実施結果の分析、改善案の検討等がなされており、必要な事柄は毎月1回配信される「FDメールマガジン」や年1回刊行している「教育実践報告書」で全教職員に伝え、教育内容、教育方法の改善に活用してもらっている。

○学部FD委員会

講義・演習・実習後に生じた問題・課題等について委員会において検討を行うことで、学部教員間での課題やその解決方法を共通理解し、授業改善に繋げている。

また、教員による自己（授業）評価を実施することで、各々の教育方法や教育内容の課題を発見し、検討・改善に繋げている。

○研究委員会

検討会を実施することで、研究手法の習得と研究に取り組む意欲を喚起し、各々の教育研究への意識改革に繋がっている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1) 四国大学看護学部設置の趣旨・目的

本学看護学部は、急激な社会の変化、特に、保健医療福祉を取り巻く著しい環境の変化の中で、「人間性豊かな生活の実現」を中心的命題として推進してきた本学の教育研究の発展として、また、地域に根ざし地域とともにある本学の使命として、地域における看護専門職者育成の必要性に応えるために設置されたものである。

従って、当該学部においては、本学の建学の精神「全人的自立」に沿って人間形成を図るとともに、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を確実に身につけ、能動的学習者として生涯学び続け、地域の保健医療福祉に貢献できる実践力を備えた自立的人材、即ち「やさしくて賢い」看護専門職者を育成することを目的としている。

2) 設置の趣旨・目的の達成状況

本学看護学部の教育課程編成は、看護に必要な基礎知識・技術の確実な修得とその系統的実践能力の育成並びに人間的成長や倫理観の育成等を重視しており、『共通教養科目』として、30単位以上の履修を規定するとともに、学年進行に伴って『専門基礎科目』『専門科目』においてもそれらの資質形成を促す科目を配置している。

平成23年度入学生については、例年同様、入学後4日間実施されるオリエンテーションにおいて、看護学部の理念や目的、教育課程編成、学習方法等についてのガイダンスを実施した。特に、履修指導に関しては、教務課員と看護学部教務委員、チューターによる指導体制を組み、履修要項やシラバスと併せて履修モデルを提示し、学生自らが学習計画を立て、主体的、また将来の目標に向かって学習に取り組めるよう支援した。

平成21年度、22年度入学生については、前述の指導のもと、教育理念に即した科目履修を堅実にを行い、1年次に実施した「フィールド体験実習」「基礎看護学実習Ⅰ」や、2年次に実施した「基礎看護学実習Ⅱ」「成人・老年看護学実習Ⅰ」では、主体的、倫理的配慮などにおいて各実習先から高評価を得ることができた。

また、当該学部は、看護師・保健師の国家試験受験資格とともに、必要な科目を選択履修することにより助産師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得が可能となっているが、教育職員免許取得希望者については、1年次後期に選考を行い、当該者へは資格取得に係る十分な履修指導を行った。助産師国家試験受験資格取得者については、3年次前期「母性看護学実習」終了後、その適性や成績等を総合的に判断し、選考を行うこととしている。平成23年度編入学生については、入学後に本人の希望が達成されないということを防ぐため、入学案内や募集要項において説明するとともに、編入学後は、編入学目的に即した主体的な学習を支援するために、編入学直後に単位認定を実施し、個別のカリキュラムを作成し、履修指導を行った。

教員組織においては、教員の資質向上を目指し、授業評価を活用したFD活動、協定を結んでいる地元総合病院での臨地研究や附属看護学研究所主催で年間2回開催される学術講演会や、次世代教員養成のための助手・助教への研修会開催など教育・研究指導体制の維持向上に努めた。また、県看護協会主催の研修会への講師の派遣や本学が行っている出張授業、臨地実習での事前・事後指導等を通して地域貢献に努めた。

当該学部のこういった努力に対する地域社会からの期待は大きく、平成23年度入試においては、入学定員80名（＋編入学定員5人）に対して、志願者数346人（編入学希望者3人含む）と前年度の329人を上回る結果となった。しかし、入学者については、97人（編入学生1名含む）と入学定員超過率が1.14倍であり、入学者数管理については、課題を残す結果となった。

施設設備については、既存校舎の耐震等の改修工事をはじめ、図書や各種設備の整備を設置計画に基づいて実施している。

3) 総括評価・所見

本学看護学部の設置の趣旨・目的は、上記に見るように入試運営について若干の課題を残しつつも、設置計画に基づいて計画的に実施され、着実に対応されつつある。

入試運営については、より綿密に入学者数管理を実施することで、課題を克服していきたいと考えている。

また、次年度より始まる就職活動については、本学就職部をはじめとする各部署と緊密に連携し、学生指導をより積極的に行いたい。

② 自己点検・評価報告書

本学は平成18年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受け、大学基準に適合していると認定された。評価結果については、冊子・CD-ROMを作成し、関係機関や関係学校等に配布するとともに、本学のホームページで公表した。

看護学部では、学部内委員会として評価委員会（学部教員4名）を置き、全学組織である自己点検評価企画運営委員会との連携を図りながら、中期目標、中期計画に即した年度内計画に対する学部内の評価の企画・実施・点検・改善等の活動の円滑な推進に努めている。

a 公表（予定）時期

平成26年5月1日 公表（予定）

b 公表方法

自己点検・評価報告書（冊子、CD-ROM）を作成し、学内外に公表する。

大学ホームページ上に公開する。

③ 認証評価を受ける計画

平成25年度に評価機関（財団法人 大学基準協会）の認証評価を受ける。

（注）・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４） 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (☒ 有) ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成23年 6 月 1 日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (☒ 承諾する) ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス

(<http://www.shikoku-u.ac.jp/about/information/>)

（注）・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス：d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先（〇〇大学）」としてください。